

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2871300451		
法人名	医療法人 敬愛会		
事業所名	ひかみシルバーホーム		
所在地	丹波市氷上町絹山1		
自己評価作成日	平成30年 2月 13日	評価結果市町村受理日	平成30年4月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.hyogo-kai.go.com/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	平成30年3月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

それぞれ生い立ちや生活の歴史、人生観の違う9人の入居者と、ともに暮らせる喜びを職員が感じられる施設にしていきたい。日々の暮らしの中では、集団生活のルールを守ってもらう事よりも、個性に合ったその人らしい生き方を支援していくことが大切。最期の迎え方については、その人の尊厳を重視しながら家族との話し合いを重ね、施設の方針よりも本人や家族の思いに寄り添っていきたい。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体の医療法人は、400床に近い病床と精神科を含む多くの診療科を有しており、名実ともに地域の基幹病院である。事業所は平成12年、その医療法人に隣接して開設された。日頃から密な医療連携体制をとっており、利用者の容態急変時でも隣接する病院へ直ちに搬送する事が出来るので、利用者や家族そして職員に安全と安心感を与えている。長い歴史を持つ事業所は、その分利用者の高齢化と重度化が進んでいるが、広くて長い廊下を歩く日々の生活リハビリは、利用者の元気の源の一つとなっている。理念の一つに「利用者ができることを尊重する」掲げており、多くの利用者が、食事の準備、洗濯干し、お盆やテーブル拭き、食器洗いなどの家事手伝いを分担して行っている。今後とも、利用者の元気が長続きする工夫を積み重ねられるよう、期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	平成12年に丹波市で初めて開設して以来、同じ理念を掲げて運営しており、職員が替わってもキーワードを肝に銘じて入居者と向き合っている	理念である「なじみの仲間、なじみの環境をつくります。その人のできる事を尊重し、プライバシーを守ります。その人が穏やかで生き生きと生活が流れる様に、パートナーとして接することを日々努力します。」を事務所とリビングに貼り出している。利用者に家事を手伝って貰ったり、個々の自由な生活リズムを支援する中で、理念を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設の近くにある北小学校や認定こども園、地元の絹山自治会とは恒例の年間行事等を通じて相互交流に努め、お互いの触れ合いを深めている	自治会長などから地域の情報を入手しており、文化祭、運動会、稲刈り見学などに参加し、秋祭りの神輿が事業所の前までやってきて、それぞれが利用者の楽しみとなっている。インターシップの高校生や特別支援学校生との触れ合いもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員は全員が認知症サポーター養成講座を受講しており、地域や社協の呼びかけに応じて実践活動を展開している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市役所の指導で年4回の開催となり、6・9・12・3月に実施。毎回市役所と地元自治会長、市介護相談員が出席して話し合っているほか、今年度から入居者も交代で参加するようになった	リビングで開催しており、複数の利用者、家族代表、自治会長、市の担当課長、相談員が参加している。議事録は職員に回覧しているのみである。災害発生時における事業所の協力体制の打診や、地区の高齢者サロンへのアドバイス依頼など、有意義な意見交換の場となっている。	地域包括からの参加を要請されたらどうであろうか。 議事録を全家族に送付されたら、事業所への理解が深まるのではないであろうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	丹波市は介護保険課に専門員として県職員OBを採用。管理者とは旧知の間柄で常に連絡・相談を取りながら良好な関係の構築に努めている	関連する市の部署には、度々出掛けて関係性を築いている。市の担当者も参加する地域の事業所連絡会が3か月ごとに開催されており、相互訪問や情報交換の場となっている。認知症サポーター研修への協力要請にも応えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人設置の身体拘束廃止委員会に加わっており、研修会や会議・勉強会等に全職員が参加して拘束禁止の正しい理解に努めている。玄関施錠はケースバイケース	事業所の職員が法人の身体拘束廃止委員会のメンバーであり、活動内容は事業所内でも周知している。身体拘束に該当する器具は使用していない。離設の可能性がある利用者の状況を見ながら、時間帯によって玄関を施錠したり開錠している。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内のコンプライアンス研修の一つに高齢者虐待防止について学ぶ機会を定期的 に設けており、職員の意識の向上にも努めて防止を心がけている	身体拘束排除と同様に毎年研修を行っている。マナー委員会が活動しており、「しなさい」や「だめです」などの表現は慎むように指導している。法人全体の職員を対象としたストレスチェックシステムがあり、約50項目にわたってチェックをしているが、事業所内に該当者はいなかった。		
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度や支援事業については年に数回、カンファレンス時等を利用して全職員で勉強会を重ねているが、設立以来対象者がいないことから理解度の向上につながっていない	開設以来、成年後見制度を活用した利用者はいなかったし現在もないが、今後必要となるかも知れないと管理者は考えている。契約時の説明の際に、家族に渡すような資料は準備していない。	地域包括などに依頼して、簡単な説明資料を準備し、職員の研修や家族会での説明に使用されたらどうであろうか。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には窓口である相談員と管理者が同席して利用者・家族に説明を行っているが、事前の見学時も利用して理解してもらうように努めている	短時間であっても、事前の見学を薦めている。質問が多いのは、費用面と入院時の退居要件であるが、詳細を説明して納得の上の契約となっている。重度化した場合に備えて、医療連携による支援体制を中心とした事業所の指針を説明し、確認を取っているが、医療連携による支援体制の説明が中心となっている。		
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年10月の家族会で意見を交換したり、アンケートを実施して意見・要望の吸い上げに努めているほか、玄関には意見箱を設置して集約に励んでいる	毎年10月のお祭りの日に、家族会を開催しており、半数以上の家族が参加している。毎回、アンケートを実施しているが回収したことが無く、長年の懸案事項となっている。家族の面会頻度は多く、その都度要望や意見を聴くようにしているが、運営に反映させるような意見は無い。	貴重な家族会であるから、アンケートを家族が応えやすい内容にし、回収方法も工夫されたらどうであろうか。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は一介護職として日々の業務に関わっているため、日ごろから職員の意見や提案には耳を傾けているが、代表者は法人の理事長でもあり来訪はほとんどない	毎月のカンファレンスの中の勉強会などで、意見を聴いている。各委員会活動の報告や転倒などの事例研究での意見交換、備品や消耗品の購入希望、業務改善要望など、意見を反映させている。		
12		○就業環境の整備などで 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	大きな医療法人の一施設である為、共通の就業規則に基づいて勤務。有休の消化、時間外労働の禁止等にも取り組んでいる			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員研修については法人の定める研修に参加しており、トレーニングの提出を通してきめ細やかな内容の各種研修に出席してレベルアップに努めている			

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	丹波市内のグループホームや小規模多機能施設はネットワーク会議を設置し、三ヶ月に一度、会合を開いて相互訪問、情報交換に努めている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者や家族には事前に見学してもらう事を勧めており、何よりも安心して入居につながるの大切。心掛けているのは先入観を排し、長い目で付き合う事が大切		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	安心して暮らしてもらうためには家族との信頼関係が第一。部屋担当を決めてはいるが全職員が面会時等に積極的に関わり、小さなことにも耳を傾けている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応の支援で大切なのは情報の共有。一人ひとりの職員が思い思いに関わるのではなく、チームワークで対応していくのが、より良いケアにつながっていく		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	大きな医療法人の中の一つの施設なので職員は医療面での意識は高いが、寄り添うケアの点ではやや見劣りするので、良き暮らしのパートナーになるよう指導している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と入居者の関係、入居者の暮らし、ケアの様子は千差万別なので、マニュアルのようなものは参考にせず、長い期間をかけて、より確かな関係を築いていくのが大切		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者は地域社会の中で長年にわたって良好な人間関係を築いてきた人々たちなので、その関係を絶やすことのないように心掛けている。面会者には次回の面会を常に呼びかけている	家族や旧友、知人の来訪が多い。最寄りのスーパーでの買い物、毎月訪問する読み聴かせのボランティア、正月の太神楽、事業所裏の地神様詣りなど、利用者にとっての新しい馴染みが継続するように支援している。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ともすれば入居者同士の口論やいざこざ、暴言もあるが、トラブルとみなさず、日常生活のありふれた日常としてとらえ、長い目で支え合える温かい関係を築いていきたい		
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所される人のほとんどは隣接する病院に入院するか、療養棟への転棟かのどちらかだが、職員は仲の良かった他の入居者を伴って面会に行くように心掛けている		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らし方への希望を明確に表出できる人はほとんどないが、家族の希望を基本にして、できるだけ入居者の生活に沿って個性を尊重した支援になるよう努めている	毎日の衣服の選択や食べたいものなど、自分の意向を表出出来る利用者が少なくなっている。毎日の家事手伝い当番を決め、得手不得手を観察しながら、利用者個々の生き生きとした生活を支援している。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報収集と入居後の一ヶ月間は特に重要な時期で、全職員が知恵を出し合ってより良い生活の構築に努めている。先入観を持たないケアが大切		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の起床から3度の食事、入浴、就寝までの過ごし方は原則自由の為、一人ひとりの暮らしぶりは多彩。このため、24時間にわたる生活の記録を細かく記入している		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングから介護計画の作成までは全職員が関わるようにした。それぞれの段階で確認のサインを求め家族を含めた多方面の意見を呼び込むようにしている	1人の職員が1人か2人の利用者の主担当となっている。計画の短期目標に対するサービス内容を見ながら全職員が日々のケアを行い、主担当が3か月ごとのモニタリングの素案を作成し、ケアマネが総括して半年ごとの計画作成につなげている。担当者会議に家族が出席することはなく、計画の内容も事後承諾となるケースが殆どである。	毎日記載されているサービス実施記録表からモニタリング迄の流れの改善が必要と思われる。担当者会議への家族の出席や、介護計画に関する希望・意見の聴き取りを、来訪回数が多い家族から始めて、徐々に広げていく工夫をされたらどうであろうか。
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	3度の食事摂取量から排泄量、運動量、睡眠の様子等まで、日々の様子やケアの実践はカルテに克明に記録しており、情報を共有しながら計画作成に反映させている		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の負担を軽くするため、病院への付き添いや散髪、買い物など外出についてはすべて職員が同伴してサービスの充実に努めている		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	当ホームは病院、丹波認知症医療疾患センター、市西部包括支援センターに囲まれており、安心、安全な暮らしが保障されているほか、自治会との交流も盛ん		
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居と同時に隣接の病院のDrが主治医となり、わずかな体調の変化にも対応できるようにしており、24時間365日適切な医療が受けられる。外来看護師とも連携している	利用者は全員入所後、法人の医師が主治医となり、毎月法人病院へ定期受診している。病院は救急受け入れも可能で、精神科を含む専門科があり、他の病院に行くことなく治療が継続できている。外来看護師へ相談できる体制がある。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常のかかわりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受信や看護を受けられるように支援している	病院の看護師と医療連携協定を結んでおり、定期的な訪問相談のほか、緊急時にも即応できるようにしている。入院、退院時には職員が全面的に支援		
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療面では隣接の病院、主治医に全て任せ、安心して治療してもらうほか、相談員とも常に情報を共有。毎日、職員が訪問して安心な入院生活を保障している	病院と隣接しており、入院時は病院と情報交換し連携している。状態変化時は入院し治療することが多い。入院の長期化による認知力低下や機能低下が危惧され、管理者は早期退院への取り組みの必要性を感じている。退院時は薬剤師や看護師から指導を受けている。	
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期、看取りについては入居時の契約の際、文書を交わして支援体制を確認しあっている。何よりも家族の思いを尊重し、話し合いを重ねている。	看取り指針は作成しているが、指針を活用した積極的な看取りのケースはない。法人が病院のためか事業所での看取りを希望する家族は少ない。入所初期に医療連携体制についての説明は行っているが、終末期の延命処置の希望についての説明や同意は行っていない。	終末期における延命治療についてのガイドラインと同意書を早急に作成されることを望みたい。
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時に備えて「事故発生時対応マニュアル」「急変時対応マニュアル」を策定しており、定期的な確認作業も全職員で実施している		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、地震、台風災害には、「防災マニュアル」を策定。なかでも水害については実際に全入居者避難に際して活用し、機能を果たした	法人との共同災害訓練以外に、事業所で夜間想定を含む訓練を年に2回実施している。昨年9月の台風時に避難勧告があり、利用者と共に避難した体験を生かしマニュアルを作成した。老人施設間の提携体制があり、非常食供給訓練を実施し、災害時は応援しあえる関係性が築かれている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症の施設なのでプライバシーの保護や入居者一人ひとりの尊重は最大の対応として常に心がけるようにしている。問題のある言葉掛けにはその場でお互いに注意し合う	理念の一部に利用者の尊厳とプライバシーの尊重を掲げ、マナー委員会活動や高齢者の接し方、接遇の研修を実施するなど意識づけに努めている。時に指示的で子どもへ対するような言葉かけや名前の呼び方など、不適切な対応も見受けられるため、注意を喚起している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の暮らしの中で、本人の希望は何よりも大切にするようにしているが、認知症の進行とともに希望表出困難者が増え、時間をかけて思いを実現できるよう支援している			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの思い、希望を尊重するため何よりも職員の都合で動くことを厳しく禁止している。その人らしい暮らしを支援するには決まったスケジュール、マニュアルは不要			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれには禁止事項や制限はなく、全て自由。家族の希望も尊重して自由におしゃれを楽しんでもらっている			
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	3度の食事とも隣接の病院の栄養課から調理された食材が届けられ、入居者が盛つけを担当しているのが現状。週一回程度は希望の食事を聞いてみんなで調理している	法人で調理した食事が届き、利用者は盛り付けや後片付けを行っている。週に1回ほどは希望を取り入れた食事を利用者と共に調理し、誕生日会はおやつを手作りして楽しんでいる。事業所の畑で栽培した野菜が食卓にのぼることもある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や栄養カロリーは病院栄養士が担当。粥・キザミ等の食事形態は主治医の指示に従っている。最近では糖尿食などの特別食が増えた			

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42			○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	病院内の口腔委員会や摂食嚥下委員会に加わり、研修や実践を通して口腔ケアの向上に努め、食後の清潔保持に尽くしている		
43	(20)		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	近年は途絶えていた居室内での失便、放尿事例が2名で発覚した。主治医にも相談したが今後は排泄失敗への対応、自立に向けた支援が課題となった	排泄の失敗や入院による排泄機能の低下、排泄用品をトイレに流すなど、排泄に関する課題と支援方法に苦慮している。医師に相談しつつ、支援計画に基づき排尿パターンに沿ったトイレ誘導や見守り、ポータブルトイレの設置、利用者へ分かりやすい文章の掲示など対策を講じている。	
44			○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	当ホームの当面の最大課題として便秘への対応が急浮上している。食事の工夫や運動など個々の予防に取り組んでいるが、下剤の処方に頼っているのが現状		
45	(21)		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は現在、月・水・金曜日の週3回としているが、希望や汚染があれば随時入ってもらっている。時々パターンを変えて朝風呂を実施する事もある	広い浴室で仲良く利用者2人がお喋りしながら背中を流し合ったり入浴したり、独りでゆっくり入ることを好む利用者もいる。個々の入浴の希望やこだわりを配慮しつつ、楽しく入浴できるよう支援している。好みのシャンプーを使ったり、入浴後は保湿スキンケアをしている。	
46			○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠や休息の時間は原則自由に思い通りに過してもらっている。昼夜逆転の人いるが他人に迷惑がかからない限り個々の動きを見守っている		
47			○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎月一回の定期受診で医師が薬を処方しているほか、薬剤師による服薬管理指導を毎月2回実施。入居者の体調管理には万全を期している		
48			○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴をよく理解した上で暮らしに生かしていくのはもとより、新しい環境や対人関係にも配慮して日常生活の充実や気分転換を支援している		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(22)		○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	昨年度から毎週木曜日の午前中を「買い物の日」と設定。ドライブを兼ねて外出している。木曜日以外にも地域のイベントや学校・こども園の行事に参加している	季節ごとに花の名所やぶどう狩り、初詣などの外出とドライブを楽しんでいる。天気の良い日はこども園や病院敷地内を散歩し、買い物の日は近くの馴染みのスーパーへ行くことが楽しみになっている。また玄関前で体操したり、ベンチで日向ぼっこや農園での作業など、外気浴の時間も持つようにしている	
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を管理できるのは9人のうち1人で、あとの8人は預かり金として現金を病院事務所で管理。本人や家族の希望に応じて自由に出し入れできる		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯の所持は自由だが、現在は一人も持っていない。手紙のやり取りができる人もなく、郵便物のほとんどは市役所からのお知らせのみ		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分の空間づくりで気をつけているのは季節感の創出で、手芸作品や展示物は四季感を出すようにしている。各初室の飾りつけは決まりなく全て自由	吹き抜けのある広いリビングは開放感に溢れ、ゆったりした空間や廊下は利用者にとって、生活の中で自然に歩行訓練している状況を作り出している。出窓や玄関前に季節の花の鉢植えや手作り作品を飾り、季節感を演出している。落ち着いた和室があるが余り活用されていない。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者が日頃過ごすホールでは、特定の人とばかり付き合う事がないよう毎月一回はくじ引きをして席を決めているほか、屋内外にベンチ、ソファ、長イスを置いてくつろいでもらっている。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に持ち込み品の一覧表を家族に提示し、使いなれた日用品で再スタートを切れるようにしている。居室内のレイアウトも本人、家族の意向を尊重している	居室ごとにドア横に手作りの花のボードが飾られ、特徴のある目印を付けるなど、自分の居室が分かる工夫をしている。居室は十分な広さがあり、洗面台が設置され生活しやすく整理整頓されている。家族の写真や手作り品、ぬいぐるみが置かれその人らしい部屋作りをしている。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分で出来ることはできるだけ本人の力でするように努めている。持ち込み物への氏名明記や屋内の案内では安全を第一に考えた環境作りに努めている		